

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	移植後多発性骨髄腫患者のサイトメガロウイルス感染症に関する研究
研究責任者	血液内科 部長 石田禎夫
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>ヒトサイトメガロウイルス(以下CMV)感染症は、CMVの感染あるいは再活性化によって起こる病態です。通常は幼少期に不顕性感染の形で感染し、生涯その宿主に潜伏感染しますが、何らかのきっかけで免疫抑制状態になると再活性化しCMV感染症を発症します。その場合、早期の診断・治療が必要です。免疫抑制状態ではCMV抗原血症検査(CMVアンチゲネミア法)による定期的なモニタリングが重要です。多発性骨髄腫・原発性アミロイドーシスでは同種及び自家移植が有効ですが、移植中は極度の免疫抑制状態となり種々の感染症を起こすことが知られており、CMVも例外ではありません。また、多発性骨髄腫においては近年ボルテゾミブ、カルフィルゾミブ、イキサゾミブといったプロテアソーム阻害薬が登場し、移植前の導入療法として利用されるようになっていきます。これらの薬剤は細胞性免疫低下から水痘带状疱疹ウイルスの再活性化を引き起こすことが知られていますが、これらの新薬の時代におけるCMV感染症に関する研究はなされていないのが現状です。そこで、今回我々は多発性骨髄腫、及び原発性アミロイドーシスに対し移植を行った患者さんにおけるCMV感染症について検討することに致しました。</p>
研究方法	<p>○対象となる患者さん 2010年7月から2020年6月の期間に当院で同種移植、及び自家移植を行った多発性骨髄腫、原発性アミロイドーシスの患者さん</p> <p>○方法 患者さんの診療録(カルテ)を用いて、移植前後のCMV感染症の有無、治療の有無、治療反応性、生命予後、移植前の原病に対する治療内容及びその効果などのデータを収集します。 また、収集されたデータの範囲で下記の評価項目について検討します。</p> <p>○評価 CMV感染症と予後の相関性、CMV感染症の発症率・治療反応性と原病の治療経過との関連性、CMV感染症と血液データとの関連性</p> <p>※研究成果の発表について、及び倫理的配慮について 本研究で得られた成果は学会や学術雑誌等で公表致します。その際、個人情報保護については十分に配慮の上で解析・発表を行います。 対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方はお手数ですが下記までご連絡下さい。本研究へご協力頂けない場合でも、今後の診療において不利益を被ることはございません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：小倉 瑞生 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>